

千八百七十年五月四日

千八百伊藤君月四日伊藤君の書

字紙は啓上る物も皆之何れ送幣し
多し付カヒテンキンドルより名出た昔書し趣
篤し熟考はた處様源之目より拙者
見知る昔書し字を好む付たより外ふ
良書し字より名別は之稱は付た

十卷目



貴下秤量と容易に誤り解あり故に概略の
 の量目と英米トロイのゲインとを以て
 即其比例を以て八文目三分をトロイの四百
 八十ゲインとあり申す
但し格別の見
 違ひあり 精密乃量目
 送幣局と秤量とに合はざる

一ドル	七々一分九厘三毛	純銀九分	雜物一分
五十セント	三々五分九厘六毛	同八分	同
二十セント	一々四分三厘八毛	同八分	同

銀錢

右四種の銀錢を
 純銀八分と
 凡一割三分の
 益あり即右を
 英國政府香港
 造幣局
 もの全く同様
 あり

十セント	〇七分一厘九毛	同八分	同
五セント	〇三分五厘九毛	同八分	同
十ドル	四々二分八厘八毛	純銀九分	混物一分
五ドル	二々一分四厘四毛	同九分	同
二ドル半	一々〇七厘二毛	同九分	同

金銀と都て同質なるを以て概して銀十五分と
 金一分と比例を以て傳送はれ凡一割の
 差あり

一ドルの紙銭を本位リガルトランド——金銭と唯好む
 を計量して鑄造する者なるは金の量エニツトと
 金銀の属を——金の量と誤るる者
 銀十枚より金一両の比例を以て目方も
 亦不^レ亦せら秤量の如くおぼしむ——故に
 ナドル、元々金銀の量と其量中目
 八分より厚く——右如く又一目二厘
 八毛かき、二様の金銭を製造せしむ

二様の正貨銭二様の本位リガルトランドと生うべし
 右と他の同々かく既^レ不^レ実檢し過量
 法をおぼしむを察めず——あるは右同法を
 本位と過用せしむ送幣の利益を減
 將政府の公金をとけしむる者

紙銭三種の目方

一、但一ドル
 紙銭一ドル二
百五十

一厘 一ドル十

細紙を皆紙細くして古紙質を堅實にする
りなが為此少く無銘を加ふ

銅紙を十割し多数を備へ置あ人が為可
故又造り善ふの注より可あらん歟

右細紙をボリリングの造幣方向より製造
イづれ右造幣方向より大略造りより注文
を受くるを其故を其造幣の價自心

少く造送よりより餘程廉あらん

なり造幣の為細く造り送るも

銅紙半分の造りより代價を拂ふも

其不始あり事あり然りと雖も其不

銅を送るは最廉價の良法といふ

なり

じコン トント

二不銀粒代り多量横原に其書付を

送越上りく下り上り尤も港より大倉
拂込はる利息并当給し料をも併計
し仕立以上

日本政府之造幣寮より外國長官ケヒテンキンドルハ
日本政府の先出スル覚

千七百七十年五月四日江戸

新貨幣量目并性合表

	量目	日本量目	純銀	經
一ドル	四百十六ゲイン トロイ	七匁一ト九厘 三モ	九分	一インチ半
半ドル	二百八ゲイン	三匁半九厘 六モ	八分	一インチ 二五五リン
銀錢	二十セント	一匁四ト三厘 八モ	八分	十六分 十五
	十セント	七ト一厘九毛 二	八分	十六分 十一

夕務者

銅錢	金銭	金銭	金銭	金銭	金銭	金銭	金銭	金銭	金銭
普	サドル	サドル	サドル	サドル	サドル	サドル	サドル	サドル	サドル
右見	右見	右見	右見	右見	右見	右見	右見	右見	右見
千	百	百	百	百	百	百	百	百	百
右見	右見	右見	右見	右見	右見	右見	右見	右見	右見
千四ヶレイン	百十ヶレイン	百十ヶレイン	百十ヶレイン	百十ヶレイン	百十ヶレイン	百十ヶレイン	百十ヶレイン	百十ヶレイン	百十ヶレイン
二ト四厘ニモ	九ト五厘一モ	九ト五厘一モ	九ト五厘一モ	九ト五厘一モ	九ト五厘一モ	九ト五厘一モ	九ト五厘一モ	九ト五厘一モ	九ト五厘一モ
十六分	十六分	十六分	十六分	十六分	十六分	十六分	十六分	十六分	十六分
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十

一見せり

ジョシロベルト

